

## 第 21 回マイ・コレクション・ワールドの佐渡金銀山関係資料

当館友の会主催の第 21 回マイ・コレクション・ワールド（3月 22 日まで開催）では、野田英樹さん（千葉県松戸市在住）が収集された佐渡金銀山関係資料 6 点が展示されています。佐渡奉行所の絵図師である山尾氏が描いたと考えられる 18 世紀後期の絵巻や、横長の絵巻をもとに坑内作業の様子をより具体的にイメージできるように一枚仕立てに編集した絵図（画像 1）、江戸時代後期の鉱山技術書などです。

江戸時代、佐渡金銀山は幕府が管理する日本最大の金銀山だったため、経営管理をめぐる多くの資料が作成されました。また、佐渡金銀山に対す



画像 1 金掘の図

る人々の関心も高く、関係資料の写本類も多く残されています。野田さんのコレクション資料はその一端を示しています。これらの資料はいずれも初公開で、学術研究資料としても注目されるものです。野田さんは、佐渡の鶴子銀山近くのご出身です。鶴子銀山は、戦国時代に石見銀山（島根県）の影響を受けて開発されたと伝えられる銀山で、令和 6 年（2024）に世界文化遺産に登録された「佐渡島の金山」の構成資産のひとつでもあります。佐渡の歴史と文化を広く伝えたいという野田さんの想いで今回の展示が実現しました。ぜひ、多くの方々にご覧いただきたいと思います。（渡部浩二）

## 糸魚川で出会ったキセキ〈輝石・奇跡〉

令和6年（2024）に当館で開催した「珠玉の国 新潟 ヒスイ,青玉,赤玉,」展で借用した資料返却の道中で、非常に思い入れのある考古資料に再び出会うことができました。

資料返却先の糸魚川市長ヶ原考古資料館ではその時、「糸魚川を旅だったヒスイ」という企画展が行われていました。資料返却に乗じてその企画展を見学していたところ、ある展示物が思わず目を引きました。それは、私が発掘調査を担当していた青森県の遺跡から見つかったヒスイの大珠です。私はかつて、白神山地の麓にある西目屋村の縄文遺跡での調査と整理作業に明け暮れていました。そこは、「水上（2）遺跡」と呼ばれる縄文時代前期から後期の大規模集落跡で、津軽ダム建設のために全面発掘が行われており、この遺跡からは土偶や石冠などたくさんの興味深い遺物が出土しました。そのひとつに、直径8cmの大型のヒスイがあります。これは、縄文中期終り頃の逆さに埋められた土器の中から出土しました。新潟県で出土する大珠としてのヒスイ製品は長楕円形の「鯉節形」ですが、北東北地方の大珠は印籠の緒締の形に似ていることから「緒締形」と名付けられています。出土した大型のヒスイは、元々、「緒締形」であった1個の製品が擦り切られて2つに分割されたようです。玉ねぎを輪切りにするかのよう、製品の側面から中心に向かって切り込みを入れ、途中の段階で分割した際の痕跡がそれを物語っています。ヒスイの硬さを考えればその作業には大変な労苦が伴っていたものと考えられます。残りの片割れは、遺跡内からは見つかりませんでした。ムラの外に持ち出されたのでしょうか。

ヒスイの穿孔技術といい、縄文人の知恵と洗練された技術の巧みさには改めて驚かされます。ヒスイの故郷である糸魚川で、その傑作に再会できた奇跡に感謝です。

（永瀬史人）

【参考文献】埋蔵文化財発掘調査報告書 <https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/70039>